

Lo-bee^{ca/}

市民活動情報誌“ロビー”

ロビーは、あなたがまだ見ぬ、ヒト・コト・モノとの新たな関係を創ります。

2025.1 第7号



表紙 南町区の皆さん

1・2ページ 自治探訪

お賽銭箱に運動靴。小雨交じりの日曜日の朝、区民の皆さんが、公園での行事を楽しみに続々と集まってきます。南町区で始まった驚くべき発想の行事とは…

3ページ 団体探訪……裾野市書道連盟

4ページ 企業探訪……手造り小麦まんじゅうの店 ふる里

5ページ ぼくらの活動ノート…向田小学校の子どもたちと先生、サポーターの皆さん
読者プレゼント

6ページ 裾野市市民活動センターへようこそ

裏表紙 各区の人口情報など

南町区（西地区）

長泉町との境に位置し、国道 246 号の東西に約 140 世帯が居住している。長泉町南一色地域と合同で浄化槽を使用することから、まちの境を超えた交流や下水道接続の意見交換を行っている。区内には屋外放送設備を備えた南町公園があり、行事の際には区民への呼びかけが行われ、さまざまな行事で賑わう。



防災運動会では、水消火器で正確に早く、的を倒します

大切なものは形を変えて残していく

防災訓練×運動会

南町区で、30 年以上行われている防災訓練と運動会。

防災訓練は、時の役員の工夫で、三角巾や水消火器・可搬ポンプ・AED の使い方、応急救命、簡易担架、炊き出しなどが実施されてきました。区内の 9 班を 3 つの組に分けてローテーションし、さまざまな内容を体験します。始めたころは南町公園がいっぱいになるほどの区民が参加していましたが、内容がマンネリ化すると、次第に参加を見送る区民が現れました。

一方の運動会も、かつては 1 日ばかりで、区内を巡るリレーや綱引き・メディシングリレーなどの種目を組で競い合い、区民総出で楽しんだといいます。その後も時代に合わせ、目的を運動から親睦に変えながらパタンクやパン食い競争・幼児のお菓子釣りなどが行われました。

長年に渡り続けられてきた両行事ですが、役員の負担と参加者減少という課題に直面し、令和 5 年度区長の竹田正三^{まさみ}さんは、自身が学習会で学んだことをヒントに、2 つを一緒にするアイデアを役員に提案しました。

役員からは「それぞれの行事の参加者が固定化しているのであれば一緒にしよう」などの賛成意見が多かったといいます。

会議後、過去の運動会と防災訓練のプログラムをもとに、役員経験者などと協議して新しいプログラムを作りました。

そうして出来上がったのが、“2023 年度南町区民防災運動会”。ほぼ全世帯から約 130 人が参加し、準備体操を終えると、防災の部として安否確認、組対抗のバケツリレー、水消火器リレーと防災の要素を盛り込んだ種目が続きました。防災の部の



法被姿の子どもとスポーツウェアの大人が準備体操



パン食い競争は運動の部の華。つい熱くなります

後は運動の部。人気の高い全員参加のパン食い競争、子ども向けのお菓子釣り、組対抗のメディシングリレーなど、趣向を凝らした種目で、参加者からは自然と笑顔がこぼれました。

「2回が1回になり、役員の負担は軽減され、参加者は増えた。防災や運動会としては不十分かもしれないが、参加してもらえることで、お互いの現状把握ができた」と竹田さん。

2回目となる2024年度防災運動会のバトンを受けたのは、金子由夫区長。10月の実施に向け、区民の集合を安否確認に変え、防災用品の展示や防災クイズも企画して当日を迎えました。しかし、開始時刻と同時に降り出した雨で、やむを得ず中止にしました。

集まった区民と会話を交わした金子区長は、「去年がすごく楽しかったと言われた。今年も楽しみにしていたという人がいて残念だった。過去に比べ、役員の準備は簡易にしたし、ノウ

ハウがある役員もいるので、今回が中止になっても来年は大丈夫」と次回を見据えました。

住みやすさの原点は交流から

同区は、区民の交流を目的の一つに、4月～9月までの毎月第3日曜日を定例日として、公民館・南町公園・歩道などの清掃活動をしています。令和4年度区長の奥村俊成さんは、高齢化で毎月では数が多いとの声を受け、区民アンケートを実施しました。

結果は、6割以上の人が継続を望まれていたといいます。「(年齢を考慮し)80歳以上の人は、無理な参加を求めないようにしたが、なぜだかみんな出てきてくれました」と奥村さん。

自身が約10年前に市外から住まいを移した経験を振り返り、「以前は、近所の顔も分からなかったが、ここは顔を合わせる機会が多くて安心。交流が大事です」と同区の住みやすさを語り、区長退任後も区の活動をサ

ポートしています。

お祭り、子ども会がなくなり…

同区は約20年前、高齢化による役員の負担、子ども成長後の少子化を踏まえ、夏祭りを中止、子ども会を休会しました。

子ども会の休会から約10年経った時、かつての夏祭りや子ども会での思い出がある世代が親になり、子どもたちの思い出作りをしたいと声をあげ、区の組織とは別に、有志主体の“子どもの集い”ができました。

夏はラジオ体操や花火大会、秋はハロウィンや子ども神輿など、大人も子どもも楽しみながら活動しています。

以前は単独で実施していた子ども神輿は、昨年から防災運動会の中で行い、会場を活気づけています。

金子区長は、「子どもの集いに区は協力するけれど、区の役員ではないから役員会に出る必要はないんですよ」と子育て世代の負担を減らし、見守ります。



ハロウィンで仮装を楽しむ子どもたち



子ども神輿で区内を練り歩きます

裾野市書道連盟

平成2年発足。市内15教室の指導者および生徒が加入。裾野市文化協会に加盟。主な活動に、裾野市書道連盟展、二市一町（裾野・御殿場・小山）合同書展、裾野市民芸術祭へ出品。市内の小・中学校で書初めや書写のボランティア指導、地域のサロンでもボランティア講師など。書道連盟だより発行（年1回）。書道文化の普及に務めている。



素敵な笑顔の裾野市書道連盟の皆さん

裾野の歴史の1ページを刻む、エネルギーな書道家の集まり

出発点は仲間づくり

34年前、「楽しく、仲良く」をモットーに、裾野市内で書道教室を開いている指導者（代表）たちがスクラムを組んで発足したのが裾野市書道連盟です。裾野市民芸術祭への出品をきっかけに、連絡を取り合おうと仲間づくりが出发点になりました。

発足に尽力したひとりの江波戸春桂（本名、英三）さんが、運営を担う部活動の仕組みをつくりました。連盟展や市民芸術祭を担当する“展覧会部”、子どもたちの作品を集めて展示する“ジュニア展部”、上下関係なく何でも話せるお楽しみ会な

どを企画する“懇親会部”、旅行や研修会、講習会などの企画は“研修会部”、そして会計を含む事務局と、会員それぞれが役割分担し、活気ある連盟をつくり上げています。

書と極める

書道と習字の違いについて江波戸さんは「書道という字は『道』がつく。十人十色の道があり、追求しても追求しきれないだろう。習字は字を習う、書き写す、と捉えている。上手に書こうと思うと書けず、無心になった時に書ける」と話します。現会長の永野健作さんは「書き手の心や情念、熱い思いがスト

レートに現れるのが書道。楷書から芸術的な書まで、多種多様な書にたけている人が裾野には多いのが自慢。連盟を支えている」と書道談義は止まりません。

書道とちと身近に

書道に親しみを感じてほしいと、地域貢献活動にも力を入れています。市内の小・中学校の書初めや書写の授業にボランティア指導で出向き、書の楽しさを広めています。東小学校の書初め指導で永野さんは「書道は色々感じる心のふたを開けてくれる役目があります。書道を通して感じる心を養ってほしい」と子どもたちに話しました。



東小学校での書初め指導の様子

書体は歴史を象徴

文字の起源は造形文字と言われ、漢字は約3500年前に誕生したと考えられている。書道は中国発祥。漢字の代表的な書体には、「篆書」「隷書」「草書」「行書」「楷書」がある。日本の紙幣は隷書を使用。ゆっくり字を書くことができた時代には篆書や隷書が普及し、スピードが求められる戦国時代などには草書や行書が、誰でも読める字が必要となった時代には楷書ができた。

題字：裾野市書道連盟会長 永野健作

手造り小麦まんじゅうの店「ふる里」

昭和 58 年 4 月創業。裾野市葛山で店を構える。平成 23 年、市内千福に移転。国産小麦、北海道産小豆、地元裾野産さつまいもなどの食材や保存料を使用しない自然食品にこだわる。また、甘みを抑えたつぶあんが特徴。ふるさと納税の返礼品として、“小麦まんじゅう”と“つぶあん”が登録されている。



まんじゅうを手に笑顔を見せる優子さん（左）と祥子さん

つぶあん一筋 妥協せずに守り続ける創業当時の味

親子でつなぐ美味しさ

田舎まんじゅうと親しまれ、昔ながらの素朴な味が評判を呼ぶふる里の“小麦まんじゅう”。「昔、祖母や母がつくってくれた思い出の味」と常連さんはもとより、県外からのお客さんも多く訪れます。

初代店主の大塩捷利^{かつとし}さんは、実家（河津町）が営む小麦まんじゅうの店で修業しました。のれん分けし、約 42 年前に裾野市内で開店。当時 100 円でお腹いっぱいになるまんじゅうを広めようと、出来立てのまんじゅうを持って富士や長岡まで営業に出掛けたそうです。捷利さん

は 57 歳の若さで他界。亡き夫の店を妻の優子さん（82）がひとりで切り盛りしました。約 13 年前から現在の店舗がある千福で娘の祥子^{さちこ}さんと母娘 2 人、創業当時の味を守り、まんじゅうをつくり続けています。

大切にしたいもの

ふる里の 1 日は、優子さんが厨房に入る早朝 4 時から始まります。まんじゅうを蒸かすための湯を沸かし、いざ！まんじゅうづくりへ。熟練の手さばきで、粘り気のある生地につぶあんを包み込んで仕上げていきます。機械を使わず“手づくり”が優子さんのこだわり。つぶあんづ

くりは祥子さんが担当します。小豆をコトコト丁寧に煮て絶妙な塩加減でつくり上げます。「うちはつぶあん一筋なんです」と 2 人は口を揃えます。

まんじゅうづくりが一段落すると優子さんは店の看板娘に。「元気だった？」「ありがとう、また来てね」と交わす会話を大事にしているという優子さん。優しい声掛けにファンが多いようです。「喜んでもらえるのが一番。動ける限り続けていきたい。生きがいよ」と笑顔を見せます。祥子さんは「この店の味を守り続けることに妥協はしない。長く続けていけるものをつくっていききたい」と将来を見据えます。



大きな看板が目を引く、国道 246 号沿いにある店

“小麦まんじゅう”や“令和（赤飯）まんじゅう”は裾野市商工会認定のすそのブランド商品。季節限定の大福なども販売。つぶあんの量り売りは一押し！！

場所：裾野市千福 167-1 営業時間：7 時～17 時

電話：055-992-6801

注文専用回線：0800-200-4228

定休日：毎週月曜日、第 2 火、水曜日（変動あり、要確認）



ぼくらの活動ノート

向田小学校の子どもたちと先生、
サポーターの皆さん



ありがとう 向田小学校

平成元年4月1日創立の向田小学校は、本年3月に36年の歴史に幕を下ろします。閉校に向けて子どもたち自身が「思い出をつくりたい」「何かやろうよ」と思いを馳せ、6年生を中心にさまざまな企画を提案してきました。その思いを受け止め実現させた大人たち。子どもたちは感謝の気持ちを抱き、向田小での残り少ない学校生活を送っています。

昨年5月に開催された向田小最後の運動会は、子どもたちが自ら創り上げた運動会になりました。赤組の団長を務めた水口颯さん（6年）は「赤組白組、勝っても負けてもみんなが楽しめる運動会にしよう」とみんなをまとめ、5・6年生を中心に種目や内容を決めました。競い合うちょうどいい対戦になるにはどんなルールが良いか何回も話し合い、練習メニューも子どもたち中心に考えました。メッセージを書いた旗も作り、地域に呼び掛けるなど子どもたちのアイデアは満載。白組団長だった須藤哲也さんたち6年生は「大成功！だった」と振り返ります。

「思い出をつくりたい」と各学年の声を反映させ、7月に実現したのが“バルーンリリース”です。倉智ソフィアさん（6年）たち児童会役員は、内容を話し合い、各学年の意思を確認し、実現に向けて取り組みました。閉校への思いや伝えたいことなどを書いたメッセージカードを風船につけ、全校児童と先生、合わせて約100個の風船を一斉に大空に放ちました。

毎年校内で行われているランニングフェスティバル（通称、ランフェス）ですが、「最後のランフェスはお世話になった地域の方々とたすきをつなぎたい」という思いを閉校事業実行委員会の話し合いの中で子どもたちが発言しました。「昔は校外を走っていたみたいだよ」と工藤明日斗さん（6年）が口火を切ると、「復活させたい」「駅伝方式にしたらどうかな」と倉智ケビンさん（6年）たちが提案しました。子どもと大人混合、14人で1チームをつくり、7区間を2周。11月の青空の下、向田地域を駆け抜ける駅伝方式のランフェスが行われました。景山湊さん（6年）は「沿道の応援で緊張がほぐれ、楽しく走れた」と話してくれました。6年生は向田小学校、最後の卒業生になります。



市民活動センターは、区や市民活動団体の運営・活動の企画、企業の CSR 活動のほか、ボランティアや補助金・助成金の情報など、幅広い相談に対応します。皆さんがちょっと踏み出す気持ちに寄り添い、活動を支えます。

市民活動センターのつぶやき

お金は大事だよ

今回は、市民活動団体にとって、大事な大事な「お金」の話。

志をもって活動していても、活動には多少なりともお金がかかります。会費や自主財源で賄うのもよいのですが、企業や財団などの助成金を活用することで、皆さんの活動が充実し、社会に認められるのは嬉しいものです。

活動の大きな助けとなる助成金は、募集時期や対象となる分野（福祉・文化・環境・教育など）、対象となる団体（法人格の有無など）もさまざま。そして、使い道の自由度が高いものも数多くあります。助成金の申請にはいくつかのポイントがあり、今号では二つをご紹介します。

一つ目は、助成金選び。助成金にはそれぞれの助成元が求める目

的がありますから、申請する活動と助成金の目的を照らし合わせてみましょう。助成金欲しさに自分たちの活動を無理に変える必要はありません。助成金の多くは企業からの寄付や運用益を原資としており、社会の要請に応えるため、目的・使い道が常に変わります。活動と相性のよい助成金を探してみると世の中の動向が分かり、活動の視野が広がります。

二つ目は、申請書の書き方。申請書を書き始めると、あれもこれもと夢を書きたくなりますが、これはNG。申請書には、小さくてもこれまでの活動実績を書けることが採択への近道。まだ活動していない団体と既に活動している団体では、申請相手への内容の伝わり方や説得力が違ってきます。

“申請書には実績報告”です。市民活動センターは、助成金相談もできますので、お気軽にどうぞ。本年もよろしく願います。

施設案内

～自治活動・市民活動・企業のCSRなど～

ところ 裾野市深良 435（生涯学習センター1階）

電話 055-992-6100

職員対応日 火曜日～金曜日 9時～17時

（祝日・年末年始等を除く）（不在の場合あり）

施設利用 8時30分～21時30分

（生涯学習センター休館日を除く）

詳しくは、市公式ウェブサイトを

ご確認ください



Lo-bee 読者プレゼント /

PRESENT

ロビーをお読みいただきありがとうございます。
読者の中から、抽選で素敵なプレゼントが当たります。右下の応募フォームからご応募ください。
当選者には、市民活動センターからご連絡します。

手造り小麦まんじゅう ふる里
小麦まんじゅうと揚げまんじゅうのセット引換券

応募フォーム



5名



数字でみる私の地域 ～進めよう！役・事業・取り組みの見直し～

地区	番号	区名	2024 人数	2024 世帯数	2018 人数	2018 世帯数
西	1	石脇	1778	739	1781	713
	2	佐野上宿	1146	511	1098	455
	3	佐野本宿	606	270	673	283
	4	佐野若狭	706	330	734	298
	5	佐野二	1632	694	1585	650
	6	大畑	113	45	123	45
	7	上町	868	380	914	368
	8	緑町	217	105	277	114
	9	元町	659	279	620	263
	10	桃園	883	435	978	427
	11	富沢	1812	812	1634	707
	12	南町	333	142	342	150
	13	二ツ屋一	617	300	592	252
	14	二ツ屋二	411	188	405	172
	15	堰原	1215	515	1225	502
	16	伊豆島田	1540	670	1640	655
	17	水窪	914	406	953	388
東	18	久根	914	389	969	373
	19	公文名一	634	292	705	290
	20	公文名二	615	275	702	272
	21	公文名三	545	243	604	238
	22	公文名四	379	149	396	140
	23	公文名五	332	141	379	144
	24	稻荷アミ	89	54	205	102
	25	中丸上	573	264	523	223
	26	中丸中	392	174	390	155
	27	中丸下	709	332	782	344
	28	天理町	240	102	279	104
	29	滝頭	746	341	766	330
	30	本茶	781	362	853	350
	31	道上	207	94	236	93
	32	峰下市の瀬	393	176	435	190
	33	鈴原	261	126	283	134
	34	茶畑団地	542	328	720	357
	35	青葉台	1041	447	1153	443
	36	和泉	861	419	912	375
	37	富士見台	775	329	810	314
	38	麦塚	621	274	635	244
	39	新道	398	200	404	189
	40	東町	138	79	150	82
	41	本通り	33	12	40	15
	42	日の出元町	98	52	98	56
	43	本村上中	360	162	388	164
	44	本村下	877	390	841	359

地区	番号	区名	2024 人数	2024 世帯数	2018 人数	2018 世帯数
深良	45	町震一	589	245	614	241
	46	町震二	238	105	258	103
	47	舞台団地	45	36	56	40
	48	南堀	599	256	685	259
	49	和市	209	79	184	70
	50	遠道原	404	161	424	161
	51	切久保	193	76	210	75
	52	上原	409	165	449	164
	53	上原団地	38	28	65	33
	54	原	338	135	381	133
	55	上須	250	111	300	117
	56	深良新田	451	189	512	190
	57	岩波	1267	593	1401	613
富岡	58	千福	700	297	666	257
	59	御宿平山	176	84	180	77
	60	御宿上谷	489	197	521	189
	61	御宿新田	1542	659	1342	553
	62	御宿坂上	609	241	652	225
	63	御宿入谷	613	261	638	250
	64	上城	223	71	209	66
	65	中村	178	73	201	71
	66	下条	173	73	178	69
	67	中里	384	161	434	163
	68	田場沢	216	78	244	87
	69	森脇団地	95	68	66	27
	70	上ヶ田	478	180	529	173
	71	金沢	881	389	917	346
	72	今里	579	246	644	266
	73	今里上	176	60	-	-
	74	下和田	685	273	730	257
須山	75	呼子	892	336	1005	326
	76	矢崎	329	166	783	470
	77	トヨタ	275	243	854	589
	78	御宿台	258	145	155	155
	79	千福が丘	2442	1061	2627	1036
	80	千福南	141	70	152	68
	81	須山一	353	140	386	141
須山	82	須山二	333	132	375	136
	83	須山三	397	148	444	152
	84	須山四	55	22	57	22
	85	須山六	437	173	421	133
市内合計			48869	21675	52484	21664

2024年と2018年（住民基本台帳より）

■始まっています。『地域づくり割』『高齢者福祉割』

各区には、市から運営のための交付金が区の人数に応じて交付されています。令和6年度から、人数に応じた交付金に加え、各区が選択できるメニューとして『地域づくり割』と『高齢者福祉割』が追加されました。

- 地域づくり割…区長さんをサポートし、地域の課題を解決する有志組織を設置すると30,000円を上乗せ
- 高齢者福祉割…1人暮らしの方や高齢者への福祉事業を実施すると、24,000円を上限に上乗せ

令和7年度の各区事業を考えるにあたり、交付金を上手に使って、人のつながりがある暮らしやすい地域をつくりましょう。